

平成十四年度
大谷学会 研究発表会 発表要旨

チベット自治区博物館蔵・五言語合璧

『如来大寶法王建普度大齋長卷画』(一四〇七年)のモンゴル語テキストについて

松川 節

本号に論文掲載

マルチメディア応用外国語学習法

——フランス語でのホームページ作成——

ダイダイエ・ヴェステル

現在、マルチメディアの普及によりコンピューターというものは仕事の道具から日常的な道具になりました。先進国では、メールでコミュニケーションすることやインターネットで情報を得ること、インターネットに自分のホームページを公開することなどはごく普通のことになっています。

このコンピューター普及以前から、情報やコミュニケーションの世界におけるその時々最新のテクノロジーは必ず教育現場に影響を与えてきました。ゆえに、現在パソコンというものが教師にとって教える道具になること、学生にとって学ぶ道具になることは当然と言えます。

もちろん、外国語学習法にもマルチメディアの普及は影響があります。大きく分けると、外国語の学習にマルチメディアを利用する方法は二つあります。CD-ROMの使

用とインターネットの使用の二つです。この論文では、インターネットのネットワークを、どういう風に外国語の授業に取り入れるかを、具体例として二〇〇一年度の大谷大学でのフランス語の授業の実践経験を紹介します。もちろん他の利用法もたくさんありますが、今回は外国語学習法においてインターネットを利用した授業法の中からふたつに焦点を絞って実践しています。

具体的には学習者はパソコンを使用して次の作業に挑戦しました。

前期は、学習者が文章力を身につけるためにフランス語で自分のホームページを作るという作業です。内容を大きく二つのテーマに分けて、それに沿って、学習者が自分で考え作成するのです。一つめのテーマは自己紹介、自分の家族の紹介、自分の趣味、自分の生活について表現すること、そして二つめのテーマは過去のできごと、自分の経験(旅行や出会い)などについて表現することです。

インターネットで公開するということは、クラスメイトの学習の結果(ホームページ)をも知ることができるので、お互いに母国語を覚えていくように自然に、他人の語彙や表現を参考にしながら、自分の語彙・表現に加えていくので進歩は早いです。それに教科書のマジメな例文より、知

っている人が書いた文書の方が興味深いのは当たり前のことでしょう。また、学習者の作品を見ると、ワープロの文章のほうが手書きのものよりかなり長く、ボキャブラリーもより豊かで、構成もよりよかったです。やはりワープロだと直すことが簡単になるので、よりよい作文ができます。このように学生たちは無意識に外国語を自分から学んでいくことができます。

後期は、学習者が読む能力を身につけるために、インターネットでフランス語のホームページを探し利用し、フランスでのバーチャル旅行を計画するという作業です。

この作業では、フランス語の能力より講読や検索のストラテジー能力のほうが必要かもしれません。普通の講読のクラスの目的は辞書を使って、ある文書を全文理解することです。それは文法的にだけではなく、文学的に、哲学的に理解する方法を学ぶでしょう。しかし、それはあまたある解釈の一つです。もちろんこれらの講読術を養うことにも意義はありますが、日常生活においては、何かを調べるために、情報を手に入れるために、文書と接する機会の方が多くあるのではないのでしょうか。この場合、文書を読む目的は完璧に理解することではありません。問題、ここでは僕が学生に与えた課題のことですが、それを解決するこ

とです。手順としては、まず適当な文書を見つけ、そして、その文書の中で問題に関連する事項をピックアップし、答えを探します。外国語学習法の側面からは、このような文書の読み方、完璧に理解することではなく大事な情報をピックアップする能力を練習し養っていくことも重要です。そのためには、このバーチャル旅行への挑戦は大変有効だと言えます。

この実験的授業の結果、従来どおりの授業と比較し、以下のマルチメディア使用のメリットを実証することができました。

一、従来どおりの授業より学習者のモチベーションや学習意欲が向上すること。何故、何のために外国語の勉強をしているのかよく分からないという学生もいると思います。問題は外国語の勉強の具体的な目的が見えてこないのです、学習意欲が湧いてこないというところにあります。フランス語を勉強していつの日かフランス人と話せるかもしれない、いつの日かフランス語の本が読めるかもしれないというのは、目的ではなく夢の世界でしかないのです。フランス語でホームページを作成することは、その点をも補いできます。目的を短期において自分の勉強に意味を与えることができます。勉強の目的は、先生の期待に応えることでもな

く、単位を取得することでもなく、自分でホームページを作って、そのホームページの読者とホームページを共有することに変わるわけです。普通のクラスと比較すると、このような授業の中で学生はワンセメスターで成し遂げなければならぬことをはっきり知ることができます。そして、マルチメディアの利用によって、普通の外国語の授業とは違い、毎回学生自身が自分の進歩を見ることも可能になります。授業を経るごとに自分のホームページの情報が増え、それを見て満足するとともに、さらに積極的に取り組む気持ちになります。

一、学習者の自律が高まること。学習者が一人で自分のレベルにあわせて自分のペースで学習できること。従来どおりの授業では学生によってかなり差がある場合があります。教育者にとつてその学習者たちのレベルの差異は大きな問題となります。同じクラスで、同じ授業で、難しすぎると思つて学習意欲を失いあきらめる学生がいます。また、簡単すぎると思つて退屈で学習意欲を失う学生もいます。その中で学習者全員にとつて適当なレベルで授業を保つのは非常に困難といえます。この授業では、学生自身もレベルの差異を気にせず安心して自分の作業(勉強)に専念することができます。

一、学習者が今までの知識を生かせること。普通の外国語の授業では、学生は教室以外では学んだことを実践するチャンスが非常に少ないので、せっかく学んだことを覚えること・身につけることは難しくなります。そして覚えられず身につかないと進歩することはさらに難しくなります。フランス語でホームページ作成することにより、フランス語の新しい知識を増やすことではなく、今までの知識を生かすことを目的とした場を学生に与えることができます。

一、学習者と教師の関係が深くなること。学習者の目的はホームページの読者とのコミュニケーションになります。そこで道具としてのフランス語でより正確にメッセージを表現しようと努力することになります。そうすると、自分のフランス語の能力でうまく表現できない時は教師に助けを求めます。従来の授業での様子と違って、教師の評価を気にせず、遠慮も心配もなく、質問してきます。また習っていない単語や文法を使って表現したいこともあるので、教師への質問は積極的で能動的なものとなります。ここでは教師はジャッジをするのではなく、学生の目的達成のために、手伝い、指導する人になるのです。

一、フランス語の能力だけではなく、情報リテラシーの方面でもこのクラスで能力を身につけられること。外国語

で恐れずインターネットを利用する自信がつくと、社会に出てからもその能力を生かすことができます。

結論として以上のメリットに加え、外国語でホームページを作成しながら、外国語を学んでいるのではなく、外国語という道具を使ってインターネットの利用者のためにまた自分のために作品を作っていると感じるようになります。外国語に対して持っている難しい・覚えられないというようなマイナスのイメージが変わり、外国語を楽しむこと、積極的に外国語に接する機会を持ち、外国語の勉強に興味を持つ可能性が広がるという効果もあり、大きな成果を得ることができました。

ホームページのアドレス：<http://www2.otani.ac.jp/~wester>

（キーワード）インターネット、コミュニケーション、学習法